

エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画 8つの分野

分野	基本方針	説明
【第1分野】 建物と屋外 スペース	高齢者が安心して楽しく暮らすことができるまちづくりを目指します	身近な地域で安心して楽しく暮らすためには、管理が行き届いた公園や緑地、安全で歩きやすい横断歩道や歩道、ひと休みできる休憩場所（座る場所）、バリアフリーなどの障がい者や高齢者などに配慮した建物と屋外スペースが必要です。
【第2分野】 交通機関	高齢者が移動しやすい交通手段の推進を目指します	日常生活の行動範囲を広げ有意義にすごすためには、便利な移動手段が確保されていることが必要です。とりわけ、公共の交通機関が確保されていることが望まれますが、地域によっては地形などにより必ずしも確保できるとは限らない場合もあります。そのような地域では、移動手段についての配慮を考えることが必要です。
【第3分野】 住まい	高齢者が安全で安心して暮らせる住まいを目指します	住まいは私たちにとって、第一の「居場所」であり、個人のライフスタイルの基盤になるものです。高齢になり介護が必要になったり、ひとり暮らしになったり、身体が不自由になっても、安全で安心して生活できる住まいが確保されていることが重要です。
【第4分野】 社会参加	高齢者の社会参加の機会の確保を目指します	生きがいのある生活を送るためには、孤立せずに、居場所があること、仲間がいること、役割があることが必要です。そのためには、高齢者のための学習・スポーツ・ボランティア・サロンなどが用意されていることが求められます。
【第5分野】 差別や偏見の解消	あらゆる世代がお互いの存在を認め合う社会を目指します	加齢によって起きる心身の様々な老化現象に対して、相互に理解しあえる体制を取ることで、偏見や差別が起きないようにするとともに、必要な支援が行われていることで、寝たきり・認知症・ひとり暮らしになっても安心して暮らせるまちづくりが望まれます。
【第6分野】 市民参加と就労	高齢者の就労や市民参加の機会を創出します	年齢のみによって働く機会や政治などへの参加の機会が失われることは、エイジズムと言われます。高齢者の就労の機会、行政への市民参加などが保証されることによって、全ての市民が権利の行使と義務の遂行を行っている社会といえます。
【第7分野】 コミュニケーションと情報	高齢者に必要な情報が届けられるように努めます	必要な情報が届けられ、市民相互のコミュニケーションを行うことによって、社会生活においてスムーズに生活を送ることができます。情報化社会での情報不足は、社会での疎外感・孤立感を持つことにもつながります。
【第8分野】 医療・保健・福祉サービス	高齢者をはじめ、あらゆる世代が医療・保健・福祉サービスを安心して受けられる体制を目指します	高齢期における不安事の一つは「健康」です。もし、病気や介護が必要になっても様々な医療・福祉サービスが受けられるような体制が整えられていれば、安心して生活を送ることができます。